

第2節 人びとの生活のあるまち／人びとの生活と沿線

人びとの行動

買いもの、遊び、飲食、私たちの日常行動は居住沿線ごとにさまざまな色あいをもっている

私たちの生活のなかで時間のもつ価値が高まっており、通勤・通学・買いもの・遊びなどの行動もそれによって大きく左右される。

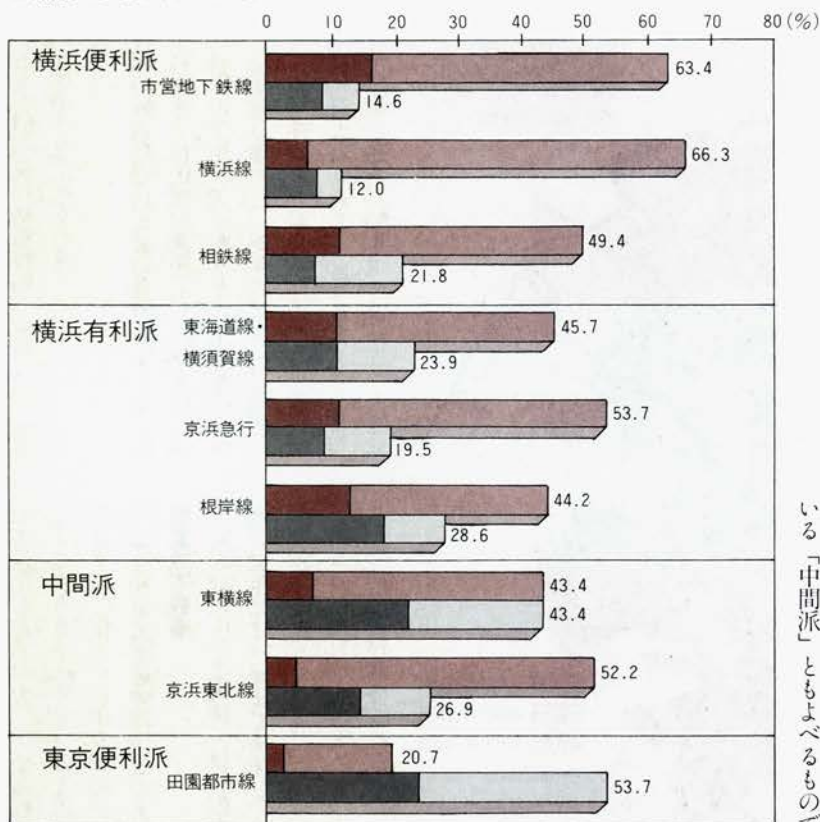
たとえば、田園都市線のためプラーザの場合、東京方面へは渋谷まで急行で約23分、いっぽう、横浜都心へは長津田乗り換えて40分以上もかかる。また、相鉄線の瀬谷の場合、横浜までは約19分で行けるのに、東京へは乗り換えをして50分以上もかかってしまう。その結果、両沿線の居住者の行動にはおのずと相違が出てくる。今回の調査でも、「遊びに行くまち」は田園都市線では渋谷が、相鉄線では横浜駅西口がトップとなっていることが、それを裏づけている。

横浜の鉄道は、横浜都心と東京都心周辺との関係から、4つに大別することができる。

まず、横浜都心との関係は便利であるが、東京都心へは乗り換えなければ行けない「横浜便利派」とも呼べるもので、市営地下鉄線、横浜線、相鉄線が該当する。横浜都心とのつながりが、もつとも大きいと考えられる路線である。

■沿線により異なる通勤先

横浜市「市民の日常生活に関する調査」



横浜都心の割合の高いのは市営地下鉄線。東京都心の割合の高いのは、田園都市線、東横線、根岸線

横浜
 西・中区
 横浜市内
 東京
 都心3区
 其他都区内

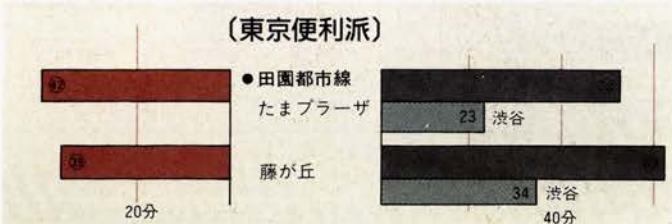
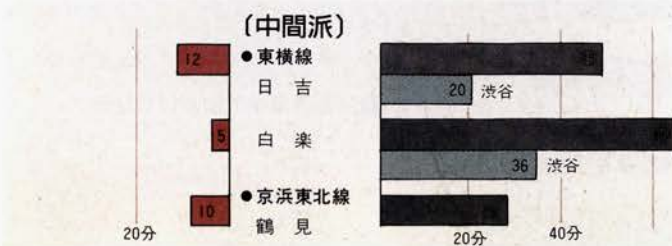
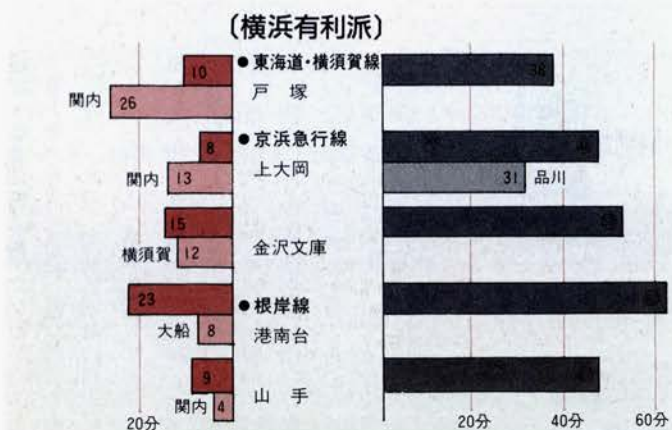
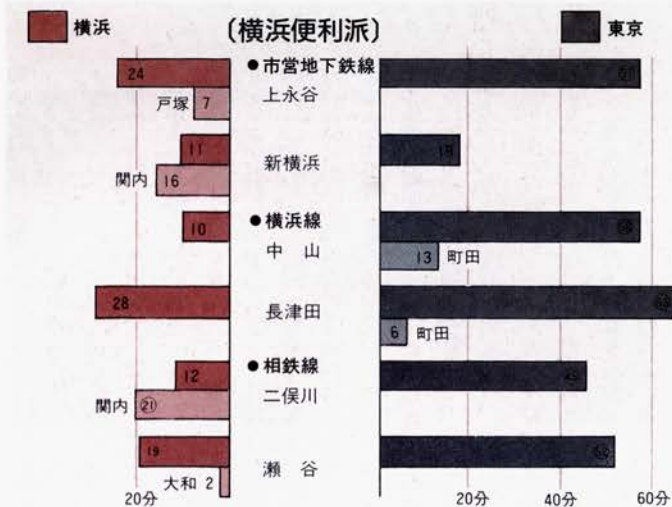
次に、乗り換えなしで両方に行くことができるが、横浜都心をとらなければ東京都心周辺へ行くことができない「横浜有利派」とよべるもので、東海道・横須賀線、京浜急行線、根岸線がそれである。これも、横浜都心とのつながりが大きいと考えられる。

3つめは、横浜都心と東京都心周辺を結んでいる「中間派」ともよべるもので、東横線と京

Town

■都心までの時間

●マル囲みは乗り換えの必要なもの



鉄道の便利さでは横浜駅が1番で、市内のほとんどのところに30分以内で行ける

(注)乗り換え時間5分を見込む
時刻表その他各社資料より作成

浜東北線があげられる。両都心とのかかわりは、相対的になると考えられる。

4つめは、東京都心周辺へは直接行けるが、横浜都心へは乗り換えなければいけない「東京便利派」と呼べるものがある。田園都市線がそれで、東京とのつながりが大きいと考えられる。

以上の4つの各派において、日常の行動についてどんな傾向があるか、「市民の日常生活に関する調査」でみてみよう。

「横浜便利派」の市営地下鉄線、横浜線は市内への通勤者の割合が63%、66%と大きな比重をしめる。いっぽう、東京へはそれぞれ15%、12%にすぎない。しかし、同じ横浜便利派のなかでも、相鉄線は市内通勤が49%と若干低くなっており、大和市等県央都市通勤が10%と高い。

「横浜有利派」の京浜急行線は、市内通勤が54%と市営地下鉄線について高く、東京通勤は20%を下回って横浜志向といえる。いっぽう根岸線では東京通勤が29%で、特に都心3区が田園

都市線、東横線について高い。東海道・横須賀線は、市内通勤46%、東京通勤24%となっている。

「中間派」の東横線は、市内と東京の割合が同じで、双方への関係が深いことがうかがわれる。京浜東北線では、鶴見、神奈川区への通勤が37%をしめ、京浜工業地帯への通勤が多い。

「東京便利派」の田園都市線では、横浜都心への交通の便がよいためか、西・中区への通勤が2%で、東京通勤が半分以上をしめている。

買いものに行く街

次に、買いもの行動をみてみよう。
買いものに行く街では、横浜駅西口、東口、伊勢佐木町などの横浜都心の割合が高い。

「横浜便利派」の相鉄線は、すべての品目で横浜駅西口が1位を占めており、横浜駅東口もふくめて横浜都心の利用が高い。横浜線は沿線上の拠点形成が比較的弱いいため、最寄りの商店街の割合が高い。市営地下鉄線は、直通で行ける伊勢佐木町、拠点の上大岡の割合が高い。

「横浜有利派」の東海道・横須賀線は、横浜駅西口の利用が他の沿線と比較して、もっとも高い。いっぽう、戸塚の利用も多く、戸塚は市の西部方面での拠点としての性格を強めている。根岸線や京浜急行線は、ふだん着や家電製品において、港南台や上大岡が横浜駅西口を抜いて1位をしめるなど、拠点の商業集積が高まっている。

「中間派」の東横線は、横浜駅西口とともに渋谷、秋葉原、銀座などの東京の割合が高くなっている。いっぽう京浜東北線は、横浜駅西口の利用が多く横浜志向といえるが、商業集積のある鶴見の割合も高い。

「東京便利派」の田園都市線では、横浜都心の利用が非常に少なく、渋谷、秋葉原、銀座などの東京の割合が高い。いっぽう拠点のたまプラーザは、おしゃれ着、レジャー・スポーツ用品などで1位をしめるなど拠点性が高い。

遊び・飲食に行く街

第1章でも述べたが、遊びに行く街では、横浜駅西口、東口、伊勢佐木町の利用が多く、飲食に行く街では、横浜駅西口が1位、次いで「横浜の味」中華街が2位になっている。

「横浜便利派」「横浜有利派」は、遊びに行く街では横浜駅西口、東口、伊勢佐木町の利用が、また飲食に行く街では横浜駅西口、東口、中華街の利用が多い。拠点では、遊びに行く街として戸塚、港南台、上大岡が、また飲食に行く街

■買いもの行くまち

おしゃれな服を買う街

路線	駅名	割合 (%)
市営地下鉄線	上大岡	37
	伊勢佐木町	37
	西口	49%
横浜線	東口	21
	最寄	40
	西口	49
相鉄線	栗川	17
	東口	23
	西口	64
東海道線・横須賀線	東口	32
	戸塚	34
	西口	64
京浜急行線	東口	22
	上大岡	27
	西口	51
根岸線	東口	22
	港南台	28
	西口	43
東横線	渋谷	25
	東口	32
	西口	56
京浜東北線	鶴見	22
	東口	23
	西口	51
田園都市線	最寄	19
	渋谷	35
	たまプラーザ	48
市全体	最寄	15
	東口	23
	西口	49

家電製品を買うまち

路線	駅名	割合 (%)
市営地下鉄線	最寄	40%
	上大岡	28
	西口	23
横浜線	最寄	60
	西口	17
	秋葉原	12
相鉄線	西口	32
	最寄	18
	秋葉原	15
東海道線・横須賀線	戸塚	48
	最寄	21
	西口	17
京浜急行線	上大岡	30
	西口	22
	最寄	20
根岸線	港南台	27
	秋葉原	22
	上大岡	17
東横線	最寄	41
	西口	28
	秋葉原	24
京浜東北線	鶴見	39
	最寄	27
	西口	20
田園都市線	最寄	40
	秋葉原	30
	たまプラーザ	24
市全体	最寄	30
	西口	19
	秋葉原	18

横浜線・東横線を除いて、各沿線の拠点も上位にある。なお買いものに対する調査は、上記以外にふだん着、紳士服、婦人服、時計、宝石、貴金属、スポーツ・レジャー用品の合計7品目で行った。

(注) 西口は横浜駅西口、東口は横浜駅東口の略 横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

■主要商業地に出かける理由

商業地	第1位 (%)	第2位 (%)
横浜駅西口	百貨店がある 75.7	交通の便がよい 58.7
渋谷	百貨店がある 47.4	交通の便がよい 31.9
伊勢佐木町	歩くだけで楽しい 40.5	専門店が多い 34.6
元町	歩くだけで楽しい 51.1	専門店が多い 42.7
横浜駅東口	専門店が多い 43.8	交通の便がよい 38.8
銀座	歩くだけで楽しい 47.9	百貨店がある 36.5
戸塚	交通の便がよい 40.6	価格が安い 30.3
上大岡	交通の便がよい 45.5	価格が安い 35.6

西口と渋谷は百貨店の魅力、伊勢佐木町、元町、銀座はウィンドーショッピング、戸塚と上大岡は利便さ。

横浜市「消費者購買行動意識調査」(昭和60年度)

おもしろデータ

キス & ライド (Kiss & Ride)

キス&ライドは、通勤する夫を主婦が、最寄りの駅まで自家用車で送迎することをいう。首都圏など大都市圏における人口増加にともない、交通の不便な遠隔地においても住宅がはりつき、キス&ライドが郊外部を中心に広がってきている。

『国際安全学会誌』(1987年12月号)によると、田園都市線の青葉台では、自家用車保有世帯の48%が月1回以上利用しているという。

「市民の日常生活に関する調査」で車の所有割合をみると、田園都市線沿線では全体の68%、次いで東海道・横須賀線沿線が65%、相鉄線と根岸線沿線では61%と高くなっている。

おもしろデータ

買いもの、飲食に出かける街はどこか

飲食で中華街に出かける人は全体で	34%
横浜便利派の市営地下鉄線	51%
東京便利派の田園都市線	18%
おしゃれ着を買いに元町に出かける	10%
横浜有利派の根岸線	21%
東京便利派の田園都市線	3%
家電製品を買いに秋葉原に出かける	18%
東京便利派の田園都市線	30%
横浜便利派の市営地下鉄線	7%
時計・宝石・貴金属を買いに銀座に出かける	8%
東京便利派の田園都市線	16%
横浜便利派の横浜線	1%

横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

よこはま市民生活白書'88 第3章「まち」

として戸塚、港南台が3位内に入っている。「中間派」の東横線では、遊びに行く街で渋谷の割合が高いが、飲食に行く街では横浜都心の利用が多い。また、京浜東北線は買いものと同じように、横浜都心と鶴見の利用が多い。「東京便利派」の田園都市線では、東京の割合も高いが、拠点のたまプラーザが2位である。

通勤については勤務地との通勤時間によって、住居、すなわち居住沿線を選ぶ傾向が強いが、遊びに行く街では、伊勢佐木町が根岸線、京浜急行線、市営地下鉄線で3位内に入っている。飲食に行く街では中華街が田園都市線を除いて3位内に入っている。横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

遊び飲食のまち



遊びに行く街では、伊勢佐木町が根岸線、京浜急行線、市営地下鉄線で3位内に入っている。

飲食に行く街では中華街が田園都市線を除いて3位内に入っている。横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)